

< 鶴ヶ島市 >

特別寄稿

土屋トカチ氏<国際的ドキュメンタリー映画監督>が緊急取材

—鶴ヶ島市議会・内野嘉広市議の「封印された暴力事件」—

本紙メールに映画監督・土屋トカチ氏から「鶴ヶ島市の内野市議の問題について取材をお願いしたい」旨の要請が届いた。土屋監督は、本紙も継続して報じている川合善明川越市長による名誉毀損裁判では「名誉ある被告」代表でもあるが、国際映画祭でのグランプリ受賞など国際的にも著名なドキュメンタリー映画監督であり、ブラック企業など労働問題の専門家としての活動も行っている社会奉仕活動家でもある。

その土屋監督が「これは民主主義の根幹を揺るがすほどの重大事ではないか」と本紙に連絡の上、鶴ヶ島市議会を紹介して頂けないかと要請された。

これを受けて、5月28日に土屋トカチ監督による鶴ヶ島市議会への取材の流れを同氏から本紙に特別寄稿が寄せられた。その全文を紹介させて頂く。

「鶴ヶ島市議会への取材を通じて思うこと」

土屋トカチ <ドキュメンタリー映画監督>

2018年5月の行政調査新聞社のウェブサイトに掲載された鶴ヶ島市議会に関する3本の記事。私はこの記事に、大変驚いた。酒の席での出来事であったとはいえ、現役の市議会議員による暴力事件が発生したのだ。民主主義社会を否定する重大な事件にも関わらず、議会での報告も一切なく、市民に公表されていなかった事実も重い。事件は読者の投稿によって発覚したもので、発生から1年以上も経過しているという。

奇しくも5月29日より鶴ヶ島市議会(平成30年第2回定例会)が始まるが、暴力事件についての報告や議論が行われるのだろうか。前日27日、行政調査新聞社へコンタクトを取り、議会の各会派に直接会って話ができないかと、無理を承知でお願いしてみた。

5月28日(月)午前11時過ぎに鶴ヶ島市議会へ向かうと応接室へ通された。

急なお願いであったにも関わらず、金泉婦貴子議長をはじめ、藤原建志議員(新政クラブ)、大曾根英明議員(大空・つるがしま未来)、五伝木隆幸議員(公明党)、太田忠芳議員(日本共産党)に集まって頂いた。議員の皆さまには、改めてここで感謝の意を表したい。

映像での取材を申し出たが、急な要請であることを理由に丁重に断られた。
したがって今回は、文章で報告をさせて頂くことにする。

◆主な質問事項は、次の2点だ。

- 1)内野嘉広議員の暴力事件を知っていたか否か
- 2)会派または議会として、今後どうする予定なのか

特に事件当事者の会派と元会派の方には、細かく質問をさせて頂いた。
まずは、事件とは直接関係のない会派からお話を伺った。

五伝木隆幸議員（公明党）

行政調査新聞社から文章が送られてくるまで、事件については全くわからなかった。
行政調査新聞社のネットで流れていたのは知っていたが、あくまでもインターネット
上での情報ですから、100%ウラをとっているものではないですし。鶴ヶ島市議員の
ことが書かれているなという程度の認識です。

ここへ来るまで、会派の中で話し合いをしたことはありません。少なくとも当事者から
何の報告もない現状ですので、明日からの議会ではどうなるか、わかりません。

太田忠芳議員（日本共産党）

行政調査新聞社から送られてきた文書で知りました。現在は、事実が確認できていま
せん。加害者である内野議員と、被害者である出雲議員の話を聞きたいと考えていま
す。議会としては、事実を取り上げ、謝罪していただきたい。

本議会で、議題として取り上げるべきものなのかは現時点では不明なことが多いが、
私個人としては追及して頂きたいと考えている。

次に、内野議員と出雲議員が以前所属していた会派・新政クラブに答えて頂いた。

藤原建志議員（新政クラブ）

彼らとは同じ会派にいた訳ですから、この事件の事実関係も共有しています。
我々の会派から出られるまでは、みんなで話し合っただけで彼ら2人のためには、どうすべ
きかと話す中で会派を出て行かれたのであって…。
出て行かれるまでは、すべて共有しています。

Q：出ていく理由としては、暴力事件のことが影響しているのですか？

A：それもあるが、政治的な姿勢が当然あったと思う。意見の違った部分で出て頂いて新しい会派をつくるならやってもらいたい。それで良かったと思っている。我々の会派を出られる前までは、全員一致の考え方で、この事件についてどうすべきか考えてきた。会派を出られたあとのことは、我々の関知することではない。

Q：会派は違えど、同じ市議会にいらっしゃるわけですから。もう少し追及して頂きたいなと思うのですが？

A：「・・・・・・・・」

Q：議会としては、お二人から事件について話を聞いてから、ということですか？

A：そこからだと思いますよ。実際に全協（全員協議会）で質問するという議員もいますから。全協の中で、鶴ヶ島市議会がどういうスタンスでやるのか。それによって、みなさん考え方が変わってくるのか…しょうがないと思われるのか…。出ると思いますよ。その後に決まることだと思います。

大曾根英明議員（大空・つるがしま未来）

Q：記事の上ではご自宅の事件だと？

A：現場にいた私としては、最初はワイワイ楽しく酒を飲んでいたのですが。若い2人ですから意見のズレとか、売り言葉に買い言葉もあって……。殴り倒すということではなかった。暴力はいけないと、再三注意もしました。新しい会派（大空・つるがしま未来）を5人で組んだときにも、この問題は議論しました。（加害者の）内野議員と（被害者の）出雲議員が所属しているわけですから、2人からは「この件に関しましてはご迷惑をお掛けしております。大いに反省しておりますので、今後ご指導はお願いします」という挨拶はありました。

Q：謝罪は受け取ったとの解釈ですか？公表しなくてよいのでしょうか？

A：当人同士で、示談していますから「対外的にオレたち事件を起こしちゃった」と公表するのは一般的ではないと思います。ですから、公表することもなかったのでしょうか。加害者と被害者が一緒に会派を組み、事件を知っている人に対しては謝罪を受けましたので、今後も「気を付けろ」と、会派の中で一生懸命指導しているところです。

Q：会派の中では謝罪があったが、対外的には伝える必要はないと？

A：事件になっていれば別ですけども、お互い話が済んでいるわけですから。もちろん当人が、新たに公表する必要性を感じなかったんでしょう。私も同様だと思います。

Q：事件になっていないから、暴力沙汰が発生してもいい？

A：そうではないですけども。言い返せば、本人たちにとっては恥ですから。大いに反社会的な行為ですからね。

Q：恥であっても、ちゃんと正していけないといけないのでは？

A：正しています。これから指導はしていきますし。二度と暴力行為には及ばないように。徹底的に。人間としてはそれ以前の問題だと思いますけどね。我々会派の中で改めて指導する次元のものではなく、本来だったら、わかっていなければならない常識のことだと思う。

Q：本会議で、この事件について会派の中から意見や経過報告を出される予定は？

A：会派の中で話はしていないですけど、2人からは、この件に関しましてはご迷惑をお掛けしております。2人は大いに反省していると報告があったので、(本会議の中では)おそらく報告しないと思います。

金泉婦貴子議長（新政クラブ）

今回の一連の取材（行政調査新聞の）で、事実を述べました。本人たちはその時点では、一時的に酒の勢いで暴力行為に及んだけれども、冷静になってみれば、大変なことをしたと、おそらく感じていらっしゃると思います。

今回、記事になって公になった時点で、どうするかというお話だと思うのですが、改めて議会の中で、各会派で一回持ち寄ってもらって、話し合いをしていただくと。そこからのスタートになるのかなと。みなさんのご意見を聞いた中で、鶴ヶ島の議会としてどういう風な方向性を持っていくかというのは、これからのことだと、私は考えております。

Q：本日は急な要請にも関わらず、お集まりいただきありがとうございました。各会派に持ち寄って、話し合っていただけというお約束をしていただけたということによろしいでしょうか。

しばらく無言が続いたあと…

藤原建志議員（新政クラブ）は「いつも話をちゃんとしています。当時の我々の会派にいた人たちだから。たぶん、全員同じ考え方だと思います」と答えた。

その他の議員は、うなづくこともなく無言だったが、まさか会派に持ち寄って、何も話をしないことはありえないだろう。そう思いながら、鶴ヶ島市議会をあとにした。

以上が、土屋監督からの寄稿である。

そして、土屋トカチ監督の取材翌日となる5月29日、本紙は本会議前の全員協議会を傍聴した。すると前日に土屋監督が市議会を訪れたからであろう、今頃になって

内野市議が問題の暴力行為について初めて公式に謝罪した。しかし、それは「お騒がせして申し訳ありませんでした」の一言で終わり、これをもって議会も問題をこれ以上追及しないかの幕引きにも見えた。もしも、鶴ヶ島市議会が本当にこれで本件問題を「封印」する気であれば、この問題発覚の端緒となった市民による投書の重みをまったく理解できていないと言っているだろう。

特に暴力事件の現場の主でもある大曾根議員の、土屋監督への回答にある「終わったこと」「互いに話が済んで事件になってない」「公表の必要はない」「殴り倒したというわけではない」などの発言からは、ことさらに「大きな話ではない」との粉飾に必死で、およそ有権者から選ばれた公職者であるという大前提を、同市議は完全に無視しているも同然に感じられる。

鶴ヶ島市議会の全体的な空気としても「この問題を追及して公にすることは、鶴ヶ島市議会の恥部をさらすことになるから、内野が議会で公に謝罪したという既成事実をもって封印してしまおう」という、まさに連日報じられる「日大アメフト部問題」と同根の、日本型組織防衛の感覚が漂っているようにしか見えない。ついに関東学生アメリカンフットボール連名から除名、永久追放処分を下された日大元アメフト部監督も、ここまで社会問題化するとは想像さえしなかつただろう。だが少なくとも日大は私学であり、問題行動を指揮した元監督らも私人で公職者ではない。

この鶴ヶ島市議暴力行為問題で最も重要なことは、もしも市民の投書がなく本紙が報じなければ、選挙で選ばれ、市税から政治家としての報酬を得ている内野市議の暴力行為が鶴ヶ島市民には知らされなかったということになる。

本年 5 月 29 日、本紙は本会議前の全員協議会を傍聴した。前述した如く内野市議による「お騒がせして申し訳ありませんでした」の一言で、内野市議による暴力事件がこれで終了したのか、あるいは本会議で改めて討議されるかの予断は許されぬが、鶴ヶ島市民の怒りの投書を市議諸氏は軽く受け流してはならない。

投書の鶴ヶ島市民は、有権者の立場から市民の代表たる議員が公人たる品格と道義心を以て市民の為に、いかに働いているかを真剣に見つめる市民の存在は市議諸氏にとって、身の引き締まる冷静かつ知的な市民の一人であることを認識すべきで、決して「口うるさい」だけの市民ではない。その点を履き違えることなく、議員として民主主義の精神を貫き、過去の議員の暴力に目を閉じることなく「是は是、非は非」を明らかにしなければなるまい。それが議員として市民の代表である公人としての道義である。本紙に届いた鶴ヶ島市民の投書を発表する。また、今治市議会で決議された「議員辞職勧告」も掲載する。

鶴ヶ島市議会は、内野市議による暴力事件に向けた対応と今治市議会が議員の暴力事件をいかに処置したかを見比べる必要があると本紙は思うのだが、如何であろうか。ともかく本会議における結論を待ちたい。

<本紙に送られてきた投書>

行政調査新聞社 社主 松本州弘 殿

貴新聞読ませて頂いております。

さて本題に入りますが、「暴力事件」を起こした市議会議員について、取材をして頂きたく筆をとりました。

平成29年2月中旬の午後10時頃、内野嘉広氏と出雲敏太郎氏が大曾根英明氏（当時は議員ではない）宅において、酒に酔って口論となり、内野氏が出雲氏に対して暴行に及び、出雲氏は全治2週間のけがを負ったそうです。パトカーも数台到着し、ものものしい雰囲気になったとの事です。

このような暴力事件を起こした議員がそのまま改選の選挙に向かう事ははたして許される事でしょうか。

貴新聞において是非とも糾弾していただきたく思っております。

よろしくお願い致します。

鶴ヶ島 一市民より

<今治市議会の議員辞職勧告決議>

堀田順人議員に対する議員辞職勧告決議

今治市議会議員は、市民の代表として高い倫理的義務が課せられていることを常に自覚し、良心と責任感を持ってその責務を果たすとともに、品位の保持に努めなければならない。

平成27年3月26日夜、今治市内の飲食店にて、堀田順人議員が、背後から同僚議員の襟首をつかみ数メートル引きずるなどの暴行を行った。議員として、また、一人の人間としてやってはならない暴力行為であり、決して許されることではない。

このような暴力行為は、今治市議会議員として、市民の負託を受けた厳粛な議会への信頼と品位を著しく傷つけるものであり、政治的・道義的責任は免れず、市民感情からしても許されるものではない。よって今治市議会は堀田順人議員に対して、自らの意思により直ちに議員を辞職するよう強く求めるため、ここに議員辞職勧告を決議する。

平成27年4月28日

今治市議会